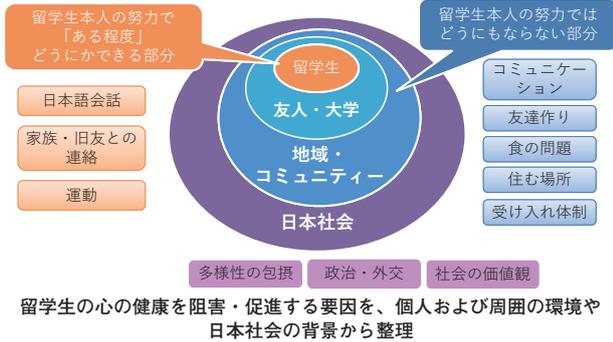


鈴木 華子

(総合心理学部)

多様性×ウェルビーイング

生態学的システムモデルで考える



心理学概念の多くは欧米の人間観に基づいて展開され、世界各地で発展してきました。しかし、土地ごとの世界観が根付く社会の中で人が生きていることを鑑みると、心の健康を個人の問題だけに帰結させずに、社会的・文化的・歴史的・地域的背景などを検討し、それらが人に及ぼす影響を考慮しながら探求することが重要です。そうした視点から、下記のテーマで研究を進めています。

- ・社会において周縁化されてきた人たちのメンタルヘルスとウェルビーイングの理解
- ・日本国外にルーツを持つ人たちの心の健康
- ・視覚障害を持つ人がウェルビーイングに至る過程と要因
- ・日本社会における多様性と包摂の検討

最近では、主に非欧米圏の研究者たちと連携して、欧米の個人主義的な世界観に基づき作られた概念に、どのようにそれぞれの土地に根付く世界観や人間観を反映させながら心理学を展開させていけるかについても検討しています。

心理学概念の文化的翻訳

社会情緒的な学び (social and emotional learning) に関して、18を越える国が連携し、学校の先生たちを対象として、質的な調査を行いました。アメリカで提唱された社会情緒的な学びの概念を軸に研究を進める中で、同じ言葉 (訳語) で表現される概念でも、異なる理解や使われ方が分かることが分かり、社会・文化・歴史的背景を考慮に入れた分析へと切り替えてきました。社会情緒的な学びの視点から若者の発達と心の健康を検討する際に、それぞれの土地の教育システムや社会システム、被植民地の経験や政治的背景、経済的な問題や失業率、人との関わり方に関する価値観や自己観を踏まえて概念を捉え直し応用する重要性が見えてきています。



プラハで開催された International Congress of Psychology 2024 で発表した時の様子

所属

総合心理学部

研究テーマ

- 日本国外にルーツを持つ人たちの心身の健康
- 土地に根付く人間観・世界観による心理学概念の理解
- 多様性と包摂の理論と応用

キーワード

多文化カウンセリング、グローバル・メンタルヘルス、ウェルビーイング、予防的介入、心理学概念の文化的翻訳